

# 交渉の立ち位置

ウインウインの交渉か？

19.11.13 外務委員会 立国社 篠原 孝

日本(牛肉)	センステイブ 品目	アメリカ(自動車・自動車部品)
( )  (19/5 トランプ 8月に大きな数字) (19/8/25 ライトハイザー 70億ドルの 農産品の輸入)	事前の要求？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通商拡大法232条 (安全保障を損なう場合追加の25%関税)</li> <li>・(共同声明) 声明の精神に反する行動はとらない</li> <li>・(安倍首相記者会見) 追加関税は課しないとトランプ大統領に確認</li> <li>・(ライトハイザーUSTR代表) 現時点で追加関税の想定していない</li> <li>・数量制限・輸出自主規制等も赦さないと閣僚で確認</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行38.5%関税を発行1年目に27.5%まで削減、その後毎年引き下げ、10年目に20%、16年目以降9%</li> <li>・全体がセーフガード付き</li> </ul>	TPPの約束 (ここから交渉 開始が筋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗用車(現行税率2.5%)については、15年目から削減開始、20年目で半減、22年目で0.5%まで削減、25年目で撤廃</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TPPと同内容で9%まで関税削減し、セーフガード付きで長期の関税削減期間を確保。</li> <li>・セーフガード発動基準数量は、2020年度24.2万トン。以降、TPPの発動基準と同様に増加し、2033年度29.3万トン。</li> <li>・2023年度以降については、TPP11協定が修正されていれば、米国とTPP11発効国からの輸入を含むTPP全体の発動基準に移行する方向で協議。</li> </ul>	二国間交渉の 結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車・自動車部品については、米国付属書に「関税の撤廃に関して更に交渉」と明記</li> <li>・撤廃時期不明瞭なまま</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発効後4か月以内に協議を終えて、その後の関税やその他の貿易上の制約、サービス、投資等の交渉を開始</li> <li>・更に関税引き下げを迫られるおそれ</li> </ul>	今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる交渉による関税撤廃を含む</li> <li>・関税撤廃交渉はする気なしか</li> </ul>

出典：日米貿易協定の合意概要、TPPの概要より 篠原孝事務所が作成

# 各貿易協定の米の扱いの違いと各国の生産量、輸出力

19.11.13 外務委員会 立国社 篠原 孝

(単位:万玄米トン)

	米の生産量	輸出力	米の扱い	MA米(2018)
日豪EPA	5	11	除外	5.2
日タイ	2,285	978	除外	17.9
TPP12	4,423	1,095	国別枠 米:5万トン(3年目まで)→7万トン(13年目以降) 豪:0.6万トン(3年目まで)→0.84万トン(13年目以降)	
CPTPP (TPP11)	3,623	762	国別枠 豪:0.6万トン(3年目まで)→0.84万トン(13年目以降)	
日欧EPA	218	36	除外	
日米FTA	800	334	除外	35.8 (297億円)
日本	733	1	-	(計543億円)

出典:USDA PS&D(2019年11月時点)による2018/19年のデータ

日本のデータは、生産量(2018年産):農林水産省「作物統計」、輸出力(2018年):税務省「貿易統計」

※TPP12、TPP11は日本を除く参加国の合計。日欧EPAはEU全体。

# 日米貿易協定、日米損得比較表

出典：各種データより篠原事務所作成

2019.11.13 外務委員会 立国社 篠原孝

日	損× 得○	項 目	損× 得○	米
・「更なる交渉による関税撤廃」を含む	×	〔自動車〔部品〕関税〕(日の攻め)	○	撤廃せず cf日・EU8年目自動車撤廃 自動車部品即時撤廃率92.1%
・撤廃の時期不明なまま (cf牛肉豚肉等の関税はTPPの他の参加国と同じく引き下げ)	(×)	(TPP米は2.5%を撤廃約束)		
・追加関税回避の約束取り付けが最優先課題	—	(日の対米輸出3割強)	—	・通商拡大法232条で安全保障上の脅威として25%追加関税をチラつかせる
・「声明の精神に反する行動はとらない」(共同声明)	△			ライトハイザー-USTR代表「現時点で追加関税は想定していない」
→×あいまいで、トランプ大統領は何を言い出すかわからない	×			
・「追加関税は課さない趣旨トランプ大統領に確認」 (安倍首相記者会見)	△			
	△	〔牛肉・豚肉〕		
	×	TPPは牛肉・豚肉の関税引き下げ(=米の聖域)(米の攻め)	○	共和党支持の中西部農家向け
		牛肉38.5%→2033年に9%へ (TPPは発動時に27.5%)		
		〔結果の評価〕		
	—	お互い聖域を重視して妥協	—	
→ウインウインと持ち上げ(安倍首相)	—		—	
		〔米〕		
	○	TPPで米国産コメの無関税枠 (最大27万t)が設定見送り(=日の聖域)	×	米の産地カルフォルニアは民主党の牙城、大統領選プラスにならず捨てている
	○	米朝製品を含め、関税の削減撤廃対象から全てはずす	×	(ライトハイザー-USTR代表はペロシ下院議長の地元故に協力取り付けのため、コメ市場の自由化を求める)
		〔ワイン〕		
	×	ワイン関税の引き下げ、2025年撤廃	△	
		〔乳製品〕		
	○	乳製品の低関税枠	△	米が早期妥結のため要求取り下げ、ウィスコンシン州議員はUSTRIに抗議書簡
		TPP加盟国全体向けのワイド枠のある乳製品33品目も米国枠新設を問題		
	×	脱脂粉乳は既存のWTO枠内にたんぱく質含有量35%以上の輸入枠5000t(牛乳換算)を新設		
	△	〔デジタル協定〕	△	・全米商工会議所は「デジタル経済の発展を後押しする」と歓迎
			○	「これでは不十分。サービス知的財産権を含む包括的な協定を実現すべき」を求める
・トランプ大統領が業界に突き上げられ、理不尽な要求を突き付けてくる可能性	×	・日米で追加交渉		・米側はTPP並みの包括的貿易協定を目指す方針を掲げている

		【WTOルール】		
		・2国間貿易協定は貿易額ベースで9割程度の関税拡大が必要		
		↓		
・期限を書かずに明記しても意味なし (cf TPPは牛肉関税等では年限と引き下げ率を明記)	×	自動車関税の撤廃を明記	○	
・他国との交渉での悪い例	×		○	
・EU、中国から弱腰と見下される				
		【牛肉セーフガード】		
・TPP参加国との修正協議の目途立たず	×	2023年までにTPPを修正し、TPPの基準数量内に米国も含む枠組みに意向を目指す。2020年度の発動基準は、現在の輸入量を下回るとし、後々に拡大する	○	
・正式署名は10月上旬、臨時国会に協定承認持ち出し、早期承認目指す	△	【議会】	○	・大統領権限で議会承認経ずに関税削減・撤廃
				・発行は2020年1月1日(ラウSTR代表)
		【今後の交渉】		
・関税撤廃までの期限が示されなかった自動車・部品の協議を想定(茂木外相記者会見)	-	・協定発効後に関税やサービス貿易で新たな交渉入りすることを視野に交渉分野を巡る協議を4カ月以内に終える(共同声明)	-	
		【小麦】		
	×	・TPP同様にマークアップ削減		
	×	・最大15tの輸入枠を設定		
		【果物・野菜等園芸関連】		
	-	・りんご、オレンジ、トマトピューレー・ペースト、トマトジュースはTPPを目標に段階的に撤廃		
	×	オレンジのSG発動基準数量はTPPの95%水準で、19年度3万5150t		
		【日本の輸入する林産品、水産品】		
	○	・関税撤廃、削減の対象とならず	×	

## EPA・FTAの交渉経緯（交渉期間、情報開示等）

19.11.13 外務委員会 立国社 篠原 孝

	交渉開始	署名	条文公開	閣議までの期間	国会提出閣議	審議時間	発効	交渉期間
日豪EPA	07.4/23	14.7/8	—	—	14.10/10	7時間 (関連法案2時間 20分)	15.1/15	7年9ヶ月
TPP12	10.3/	16.2/4	16.2/4 (1/26)	33日	16.3/8	70時間46分		
CPTPP(TPP11)		18.3/8	—	—	18.3/27	6時間 (関連法17時間 15分)	18.12/30	8年9ヶ月
日欧EPA	13.4/15	18.7/17	18.7/17	112日	18.11/6	4時間30分 (関連法案3時 間)	19.2/1	5年10ヶ月
★日米FTA	19.4/15 (18.8/9 FFR)	19.10/8	19.10/8	7日	19.10/15	11時間	?	6ヶ月
米韓FTA	06.6/	07.6/	—		—		12.3/	5年9ヶ月

外務省提出資料をもとに篠原孝事務所作成

- 注) 1. TPPは特別委で協定と関連法を一括審議  
 2. 交渉担当者の茂木経済再生・TPP担当大臣が出席するため、関連法案を審議する内閣委が中心

# 日本の全世界からの輸入農林水産物及び農産物の推移と上位5ヶ国

19.11.13 外務委員会 立国社 篠原 孝  
(単位：億円)

		1990	2000	2010	2018
総輸入額	A	338,552	409,384	607,650	827,033
農林水産物輸入額	B	72,806	69,140	71,194	96,688
農産物輸入額	C	41,904	39,714	48,281	66,220
農産物輸入額の割合	C/A (%)	12.4%	9.7%	7.9%	8.0%
上位5ヶ国	1	アメリカ合衆国 15,764	アメリカ合衆国 14,957	アメリカ合衆国 12,946	アメリカ合衆国 15,485
	2	オーストラリア 4,061	中華人民共和国 4,610	中華人民共和国 5,481	中華人民共和国 7,552
	3	中華人民共和国 2,740	オーストラリア 3,270	オーストラリア 3,697	オーストラリア 4,800
	4	カナダ 2,299	カナダ 2,225	タイ 3,327	タイ 4,398
	5	台湾 2,030	タイ 1,867	カナダ 3,073	カナダ 4,060

出典：農林水産物輸出入統計

# 日本のアメリカからの輸入農林水産物及び農産物の推移と上位5品目

19.11.13 外務委員会 立国社 篠原 孝  
(単位：億円)

		1990	2000	2010	2018
総輸入額	A	75,859	77,789	59,114	90,149
農林水産物輸入額	B	24,041	18,710	14,728	18,077
農産物輸入額	C	15,764	14,957	12,946	15,487
農産物輸入額の割合	C/A	20.8%	19.2%	21.9%	17.2%
上位5品目（農産物）	1	とうもろこし	2,882 たばこ	2,738 とうもろこし	3,078 とうもろこし
	2	たばこ	1,832 とうもろこし	1,954 豚肉	1,558 牛肉
	3	牛肉	1,495 牛肉	1,626 大豆	1,116 豚肉
	4	大豆	1,347 豚肉	1,026 小麦	870 大豆
	5	綿	909 大豆	1,049 たばこ	726 小麦
対米貿易黒字額	D	54,707	75,770	44,626	64,553
農産物輸入額との比較	C/D (%)	28.8%	19.7%	29.0%	24.0%

出典：農林水産物輸出入統計

解説：

1. 農産物輸入割合は総輸入額のほぼ20%前後で推移。
2. 農産物の中では約1000万t（飼料用）とうもろこしの輸入額が1位を占め、全農産物輸入額の4分の1近くを占めている。
3. 牛肉は2003年に輸入禁止となり、2005年に20か月齢以下を解禁、2013年に30か月齢未満が解禁される間に輸入が減ったものの、近年はBSE前の水準に回復。
4. 豚肉の輸入額が増えている（その分国内生産量は減少）。 ※表「牛肉・豚肉・みかんの生産量、輸入量の推移」参照

**5. 2018年の対米黒字を農産物の輸入額で補うとしたら、今の4倍も輸入しないとならない（農産物は金額ではそれほど大きくない）**

## 牛肉・豚肉・みかんの生産量、輸入量の推移

19.11.13 外務委員会 立国社 篠原孝

(単位:千トン)

		1980	1990	2000	2010	2018
牛肉	生産量 ※1	302	388	365	358	333
	輸入量 ※1	120	384	738	512	620
豚肉	生産量 ※1	1,001	1,075	879	895	897
	輸入量 ※1	145	342	651	768	916
みかん	生産量 ※2	2,892	1,653	1,143	786	774
オレンジ	輸入量 ※3	71	145	136	110	82
グレープフルーツ	輸入量 ※3	135	157	272	175	72

出典:

※1 牛肉、豚肉は食料需給表をもとに部分肉換算した生鮮肉の数値(単位:千トン)

※2 出典「食料需給表」(単位:千トン)

※3 出典「貿易統計」(単位:千トン)

注)1988 牛肉柑橘の自由化

2018.12 TPP11発効

2018.2 日欧EPA発効

解説 1. 牛肉は、約40年間の生産は横ばい、輸入は5倍増

特に1988年の自由化で10年後倍増

2. 豚肉は、生産が約40年間で100万t減、輸入量は6倍増

3. みかんは、1988年の自由化後、生産量は3分の1に縮小

2018年には約4分の1に縮小

4. オレンジとグレープフルーツの輸入量はそれほど増えていない



# 日本のアメリカへの自動車、自動車部品輸出額と黒字額の推移

出典：財務省貿易統計

(単位：億円)

		1980	1990	2000	2010	2018
対米輸出額	A	71,181	130,566	153,559	103,740	154,702
日本の米からの輸入額	B	55,581	75,859	77,789	59,114	90,149
対米黒字額	C(A-B)	15,600	54,707	75,770	44,626	64,553

## アメリカの貿易赤字上位5ヶ国・地域の推移

出典：経済産業資料より

(単位：億ドル)

	順位	1990	2000	2010	2018
上位5ヶ国	1	日本 (410.7)	中国 (838.3)	中国 (2730.4)	中国 (4195.3)
	2	台湾 (111.8)	日本 (815.6)	メキシコ (663.2)	メキシコ (806.6)
	3	中国 (104.2)	カナダ (519.0)	日本 (600.8)	ドイツ (681.0)
	4	ドイツ (94.4)	ドイツ (290.6)	ドイツ (343.0)	日本 (672.0)
	5	カナダ (84.1)	メキシコ (245.8)	カナダ (283.8)	アイルランド (467.3)
総貿易赤字額		1,022.8	4,361	6,353.6	8,748.1

# 自動車貿易をめぐる日米の不均衡(2018)

19.11.13外務委員会 立国社 篠原 孝

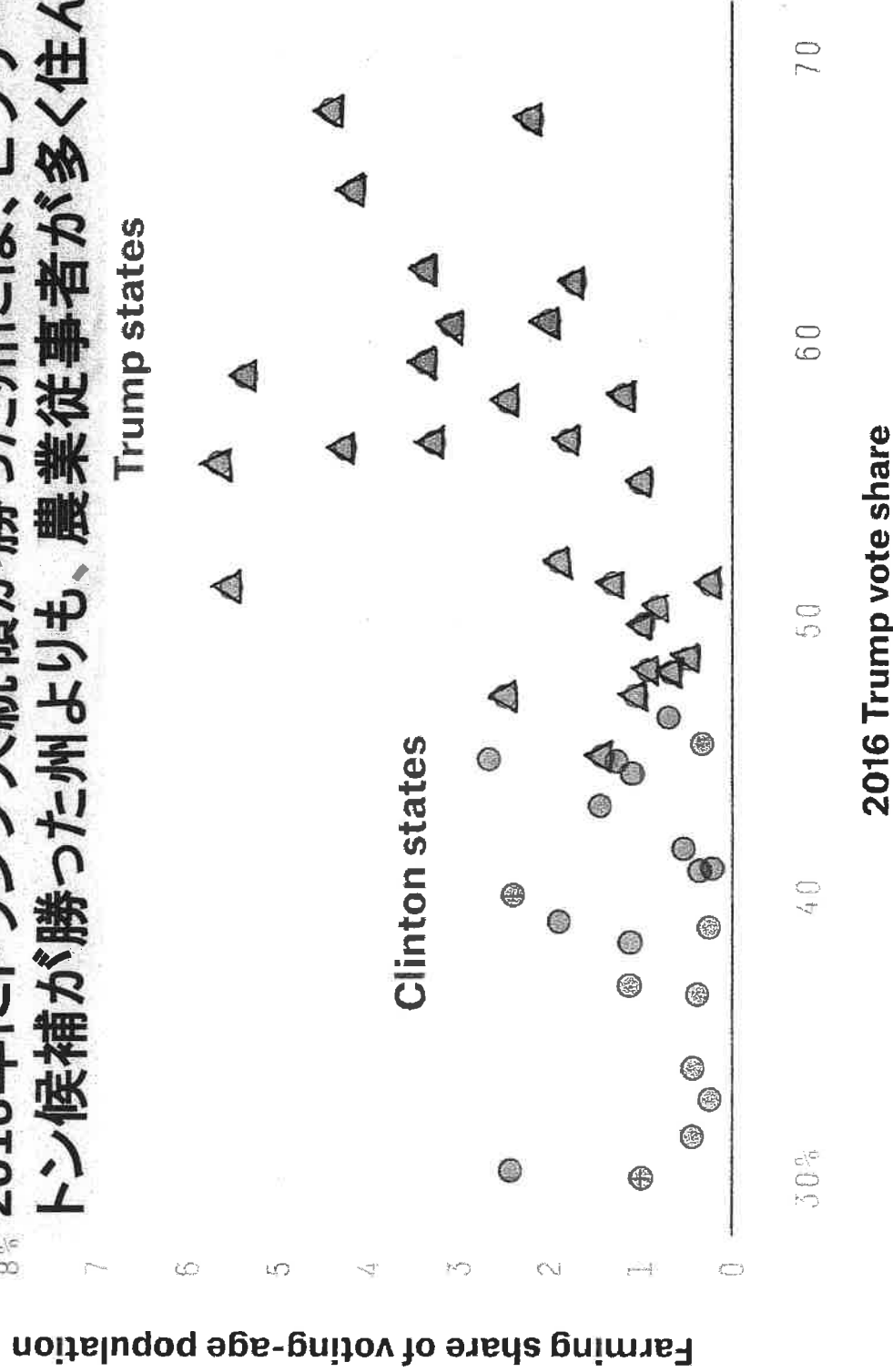
		金額(億円)
アメリカへの総輸出額	(A)	154,702
うち自動車関連	(B)	54,536
自動車	(B1)	45,241
自動車部品	(B2)	9,295
アメリカからの総輸入額	(C)	90,149
うち自動車関連	(D)	1,705
自動車	(D1)	1,005
自動車部品	(D2)	700
アメリカの対日貿易赤字	A-C(E)	64,553
うち自動車関連貿易赤字	B-D(F)	52,831
対米輸出に占める 自動車関連割合	B/A(G)	35.3%
対日赤字に占める 自動車関連の割合	F/E(H)	81.8%

出典:経産省提出資料 財務省貿易統計

## States that have a lot of farmers backed Trump

"Farm operators" as a share of the voting-age population vs. Trump share of 2016 presidential vote, by state

2016年にトランプ大統領が勝った州には、ヒラリー・クリントン候補が勝った州よりも、農業従事者が多く住んでいる



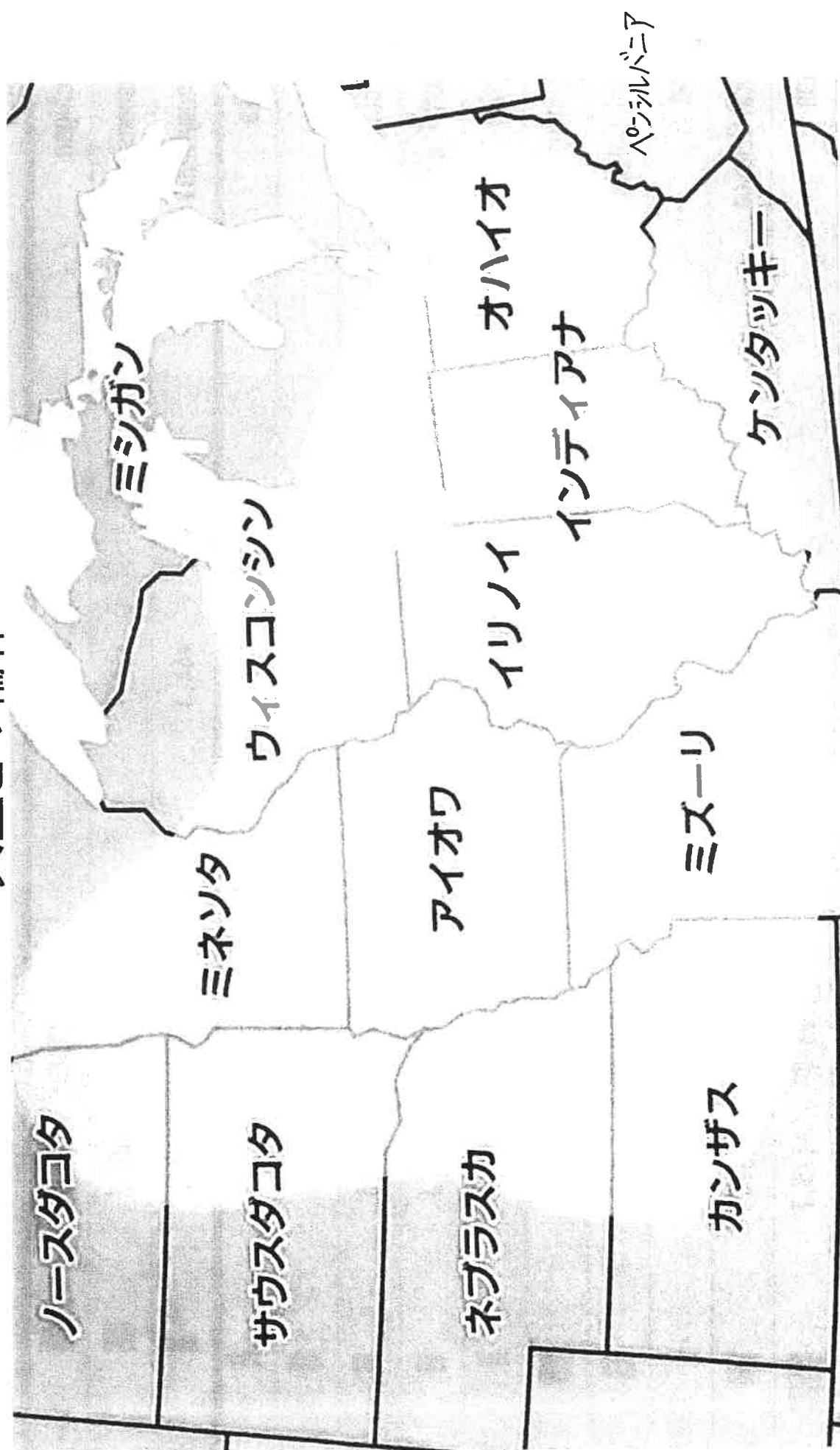
# コーンベルト

(ラストベルトと重複する)

19. 11. 13 外務委員会 立国社 篠原孝

## アメリカのトウモロコシ生産80%占める

### 大豆との輪作



出典：中林美恵子氏 資料 より引用